

須磨（下）（今様須磨の寫繪）

〽かくとも知らず姉妹は

〽もつれし髪もツイとけやすき

千筋結ぶの女同士

伊勢の二見がうらなくも

見ゆる鏡に顔と顔

「アノマア行平様は

二人を先へとおつしやつて

そうして今にもお見えなされぬは」

「大方隠れて私等を

おなぶりなさるお心でござんしょうわいなア」

〽コレ妹

合点のゆかぬアノ松に

行平様の烏帽子狩衣才

「オツほんにどうしてアノ松へ」

〽心ならねば走りより

松にかけたる二品を

〽疾しやおそしと

とりどりに

「立ち別れいなばの山の峰に生うる

まつとし聞かば今帰りこん」

「立ち別れいなばの山と遊ばしたは」

「もしや都へ」

「エ、」

「満潮待が出船の習ひ

こりやこうしては」

「そんなら姉さん」

「妹おぢや」

〽いざと互に褌引上げ

馳せ行く向うへそりさげの

〽奴のこの〽此兵衛が

留めた手足もふしくれし

すねた心の松の木男

〽酒と女に目がくれて顔に似合はぬ色上戸

〽ここで押へた姉え達手元三楯に三ツ扇

ちよつとあいなら石ごきで

二ツ輪青う桐の文字

どうでござんすとしなだるる

「こりや誰かと思へば此兵衛さん」

「急ぎの用がある程に」

「ちやつと通して下さんせいナア」

「オツトその用知っている

アノ歸路の行平が

後をしたうてゆくので有るうがナア」

「すりやもうアノ行平様には」

「とうに都へ 行んだわやい」

「チエエ」

「ハツとばかりに松風は

正体もなく伏沈む

「妹も共に涙ぐみ

「エエつれない行平様

三歳がほどのうき恋を

仇に都へいぬるとは」

「エエ曲もなや胸慾な

「なんぼつれないお心ぢやとて言い交はしたる言の葉を

此方は忘れず待わびて

共々お供と村雨が

行くを引き止め

「そりや悪い」

「なんぼそさまが蟹の子ぢやとても

五町や十町は泳ぎもなるがむぐりもしよがの

とても行かりよか波の上そこらをおれが才覚で

「沖の洲崎に茶屋立て立させて上り下りの船を待つ

「ヤレコレ田楽そば奈良茶

「エ、おかしんやせ

其様な事エーモ 知らぬわいなア」

「われがそれほど思ふ物

モウ留めもせぬ

おらがて船であと追っかけ

恨のたけを

「嬉しうござんすとはいへ姉さん」

「ハテあとおれが引受けたここかまはずと」

「そんならあとを 頼んだぞエ」

「飛立つばかりかひがひしく

真砂をけ立てて一散に

御跡しとうて走り行く

「ヤレヤレこれで邪魔を払うてのけた

これからは姉の松風

「ヨーこりや氣を失つたか心をつけるコレ松風 ヤアイ」

「呼ばれてふつと松風は

心づくよりうる」と 形見の狩衣抱きしめ

「形見こそ今は仇なれこれなくば」

「忘るるひまもありなんと

詠みしもことわりやなお思ひこそ深かりし

「申し行平さま

何故に物をばおっしやらぬのぢや夕べの後のお言葉を

聞きたいわいなエ、モウ」

「ンハアア可愛やこいつ氣が違つたな」

「才氣狂ひぢや」 春と夏との

「ムー」

「季違いは」

笑ふ山辺になくほととぎす

ほぞんかけたと走れば走る

蝶も菜種に物狂ひ

「コリヤ松風

たとへ行平に捨てられてもナここにも一人色男」

日頃くどくにぴんしゃんと

そちはつれない糸なき三味よ

ひくにひかれぬ我思ひ

てんつてん天と誓文たまらぬ

なびけ塩屋の夕煙り

サツサ立つわいな

そさまと浮名が立つわいな

よんやなよい首尾で

「エエなんの行平様より他の男は」

コレコレ何んほそもじがさう言つてもナ

もつここにはおらぬアノ行平

「イエソレンソレ」

「ドレドレドレ」

「ソレそこに」

「ドレどこに エーありや松ぢやわヤイ

「アノ松こそは行平様

たとへ暫は別るとも

待てば来んとの御歌を

せめて頼みに松風が

狩衣ちやつと身にまとひ

心のうさをなくさめに

有りし詞をそのままに

「此松風は何んとした」

さては我らをよそにして

てつきり他に色事が有明の

月のよすがに忍ぶ約束

相図の文をしめし候べく候かしく

大かたそんな事である

待たるる身より松風ヤイ

あいと返事もどつちよ声

つかつかそばへ寄り添へば

ちやつと飛のき狩衣の

袖をとらへて

コレ何ぢやいな

「心憎いは 妹村雨」

今は誰とてわくらはに

訪う人もなき須磨の浦

一人残つてそもやそも

あたりよう物か情なや

イデ追つかんと駈行くを

たとへ荒波たちまちに

悪魚のえじきとならばなれ

「可愛さあまつて憎さが百倍」

恋しき人に淡路島

通ふ千鳥の翅をかつて

空をも駈けり灘をもしのぎ

逢はでおくべき女の念力

邪魔しゃんすなと引き退けて

行くを止むるやぶ力

思ひは堅き望夫石

それは筑紫の松浦潟

これは播磨の須磨の浦

磯打つ浪のおのづから

松に吹き来る風も狂じて

どう　　さ　　さ　　さ　　と　　降　　り　　し　　き　　る

村雨と聞きしもけさ見れば

松風ばかりや残るらん

松風ばかりや残るらん。